

病状説明内容

2013 年 12 月 1 日

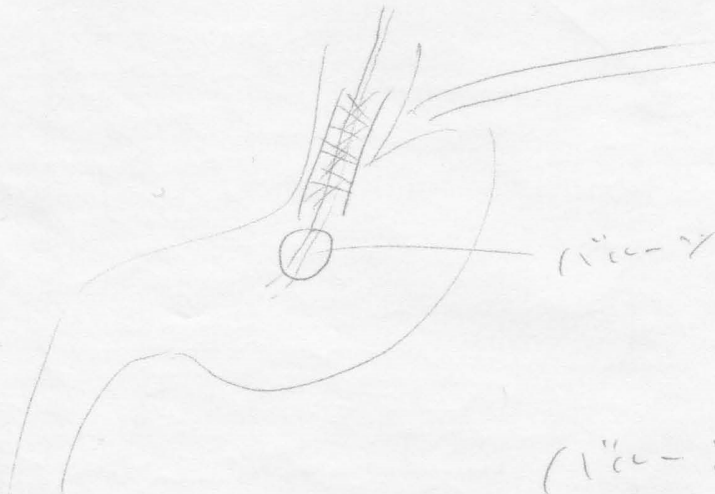
患者さん (江藤 彰治) 殿 ☐ ご本人へ ☒ ご家族 () へ

食道穿孔

スリット挿入

↓
食道から胃に落ちた → 胃に落ちた

バルーン (246.12mm)



手術は 3 日 9 日

(バルーンを 246.12mm まで 31.2cm まで
下げた)

胃にスリットを 下 に 落ちた

胃にスリットを 下 に 落ちた

江藤 彰治

患者・家族

主治医

江藤 彰治

看護師

小澤 昇

病状・手術・検査・治療・処置同意書

岩手医科大学附属病院長 殿

私は病状・手術・検査・治療・処置について、別紙病状・手術・検査・治療・処置説明書に基づき、合併症などを含め担当医師より十分な説明を受け納得しましたので、手術・検査・治療・処置を受けることに同意します。なお、手術・検査・治療・処置中に緊急の処置が必要となった場合には、適切な処置を受けることを承諾します。

平成28年6月27日

患者氏名

住所

盛岡市津又田南3丁目6-7 八竿 照り 善貴

保護者または保証人氏名

患者との続柄

(患者が未成年の場合は必ず保護者または保証人氏名を記入してください。)

住所

説明者(主治医) 小籠 雅博

- ※ この同意は、この手術・検査・治療・処置を行う前であれば、いつでも取り消すことができます。
- ※ この説明内容について不明な点があれば、主治医に再説明を求めることができます。

患者様・御家族様へ

後方視的研究へのご協力のお願い

岩手医科大学医学部 救急・災害・総合医学講座 救急医学分野 外科グループでは、過去に下記の治療を受けて頂いた患者様のデータを用いた臨床研究を行います。患者様個人のお名前や個人を特定出来る情報は一切公表いたしません。また、患者様に不利益を与えることもありません。ご理解とご協力をお願い申し上げます。しかしながら、様々な理由によりご参加を辞退される場合は下記の担当医師へ御連絡ください。

研究課題：食道穿孔の治療成績と経験についての後方視的研究

研究目的：食道穿孔は穿孔部より消化液などの内容が流出することにより組織の炎症を引き起こします。時には胸腔内へ穿破し炎症が進展します。感染を伴った場合は、敗血症へ移行し多臓器不全を惹起し致命的となる疾患です。しかし、食道穿孔の発生率は低いため各医療施設での治療経験は限られます。今回は、食道穿孔の治療を行った患者様を対象に、過去の診療録から調査を行い、治療・管理・成績を検証することを目的とした研究を計画しました。

対象となる患者様：2008年1月から2016年12月までの間に岩手医科大学救急・災害・総合医学講座 救急医学分野内の外科グループの診療において食道穿孔に対する治療を施行した患者様。

研究期間：倫理委員会承認日～平成29年12月31日まで

個人情報の保護：この研究では、過去の診療録からのデータを使用させていただきます、患者様個人、お名前、個人を特定する情報は一切公表致しません。

解析結果：本検討は、適切な解析により行われ、学会発表および論文発表がなされます。

利益相反：本研究は企業との共同研究ではなく、企業や組織からの資金提供はありません。

お問い合わせ先

岩手医科大学医学部救急・災害・総合医学講座 救急医学分野

担当医師 小鹿雅博

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL：019-651-5111（内線6220）